長洲町立長洲小学校　校長便り　№１２８

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和５年１０月２６日(木)

「私の愛語録」

ここのところ、自分はこのままで良いのか、進んでいる道は間違いないのだろうかと、ふと考えることがあります。そんな時には、歴史上の人物の言葉に突破口を見出すことがあります。次の言葉は、作家、武者小路実篤の言葉です。

才能で負けるのは
まだ言い訳が立つ
しかし誠実さや
勉強、熱心、精神力で
負けるのは
人間として
恥のように思う
他では負けても
せめて誠実さと
精神力では
負けたくないと思う

私は教員採用時、同級生において行かれるという不安と、自分自身の不甲斐無さに打ちのめされそうな時間を送っていました。卑屈になっていても前進はありませんので、そんな時に心に浮かべていたのが「真摯に謙虚に感謝して」という言葉です。今でもそれは変わりません。前に進むために必要な心持ちだと思います。

修学旅行直前雑感

さて、修学旅行は子供達にとって学習においても、友達との交流においても大きな意味を持ちます。旅行の話を子供達にいたしますと、それぞれに充実した雰囲気が感じ取れました。旅行後は修学旅行のまとめが始まっていきますが、思い出深い修学旅行を更に印象深いものとするためにも、今後の学習は重要な意味を持ちます。学習したものを挙げればきりがありませんが、中でも子供達の心の中に印象深いものとして、平和についての学習が挙げられます。

世界で戦争の武器として核兵器を使われた場所は２ケ所ですが、どちらも日本にあります。広島、長崎には世界の人々が平和の尊さや戦争の悲惨さ、愚かさを学びにいらっしゃいます。私達は学ぼうとすればすぐに学ぶことができる場所に住んでいるのですから、大変恵まれています。国内唯一の地上戦があった沖縄や、特攻隊の基地となった知覧も近くにあります。そういう意味においては最も学ばなければいけない立場なのかもしれません。しかし最近どうでしょう。言葉が過ぎるかもしれませんが、日本に住んでいる人達はあまりに平和な環境に慣れすぎて、危機感を持つことができず、平和を啓発していくという使命を忘れているような気がしてなりません。私は以前、修学旅行の引率時、被爆講話の中での忘れられない言葉があります。それはこうです。「日本の国民が被爆者という言葉を知らないで、逆に他国の若い人たちが、ヒバクシャ„を知って、核兵器廃絶を訴えているということを。」また、「歴史を繰り返してはならない、私は忘却による歴史の繰り返しを恐れる。」という言葉もお聞きしました。私達はもっと平和の大切さや争いの愚かさや悲惨さを訴えていかなければならないと思いませんか？　不思議なもので年齢が上がるにつれて戦争や核兵器、少し飛躍しますが拉致やテロの問題等々、非常に腹が立ち、どうにかしなければならないという気持ちになります。誰も戦争や核など望んでいないはずですよね。後に続く世代に平和な世の中を残していくために、私達は何を成すべきなのかをしっかり考えなければなりません。一人一人がこのような考え方のもとに行動を起こすことが必要です。

シリーズ「自分を語る」＃１２８

前回は南ケ丘小学校時代に、大腸のポリープ切除手術についてのお話でしたね。こんな話の方が保護者の皆様からの反響が多いので、筆者苦笑いです。より私澤田を身近に感じてくれたのだと勝手に解釈して、喜んでおります。

さて、南ケ丘小学校３年目、この年、南ケ丘小学校は創立３０周年を迎えました。その為、校内には記念式典の実行委員会が組織され、メンバーには地域の識者、ＰＴＡ執行部、教職員で構成されていました。南ケ丘小学校は、昭和の終わり、いわゆるバブル景気の頃に、人口増が著しかった合志町に創立されました。その後、合志町と西合志町が合併して合志市になったことで合志市立南ケ丘小学校が誕生したのです。現在でも合志市を含め、菊陽町、大津町、菊池市の人口は増加傾向にあり、新興住宅地が多く若い保護者世代が多いために児童生徒数の増加も顕著です。その為、学校が密集する傾向にあり、生徒指導事案も多くなっていて、先生方のご苦労も大変なものがあるようです。

話が逸れました。「南ケ丘小学校創立３０周年記念式典」と聞きますと、すごく大きな式典でホールでも貸し切ってするのでは？と思いましたが、実は違っていて、かなりの低予算で行わなければなりませんでした。記念の「手拭い」を作製することは決まっていましたので、その分を引いた残額で何をするか決めなければなりませんでした。子供達とも話をしましたが、出てくるアイデアはお金がかかることが多く、作業を進める中でビックリしたのですが、「ギネスに挑戦」するためにはすごくお金がかかるということは新発見でした。記録の認定員のギャランティーだけでも数十万かかり、全部合わせれば軽く百万円は越えます。私もびっくりしました。

話し合いが暗礁に乗り上げたかなと感じていた頃、当時の校長先生と教頭先生と３人で話をしていた時に、私が冗談交じりに「全校児童でリレーマラソンやったらどうでしょう？」と提案すると、何とこれが承認され、早速、実行委員会で提案され、これまたあっさり承認されました。当然のことながら主査は私澤田でした。学級ではリレーマラソンをしたことがあっても、今回は全校児童を動かす、全教職員を動かすこととなります。運動会の一種目を拡大したものと捉えれば、何ら難しいものではありません。しかし、当時の私は、取組によってもたらされる効果や、主体的・協働的な活動の効果、自治集団の育成などの重要性をうまく伝えることができず、それに対応するために、行事の説明に莫大な時間を費やすことになってしまいました。こういった行事が長洲小学校でも出来たらいいなと思う澤田です。

当日、午前中に体育館でお堅い式典が行われ、午後、運動場で第２部です。リレーマラソンは大盛り上がりで、特に６年生は感動のゴールを迎え、涙を流す子供や保護者の方も観られました。また、合志市出身の箱根駅伝経験者をお迎えし、一緒に走ってもらったのですが、あまりの速さに子供達はビックリしていました。保護者や先生方も走って頂き、皆で作り上げた思い出に残る行事となったようでした。こうして、南ケ丘小学校での取組も順調に過ぎていきました。　（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）